

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	演奏/歌唱トレーニング I		授業形態 / 必修	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年木村充揮を父に持つ木村俊章とロックバンド「BAHARANA」結成。 ・ジョニー吉長、内田勘太郎、寺岡呼人等大御所ミュージシャン・バンドと共演を重ねる。 ・2012年6月バンド活動休止後は、ソロアーティストとして活動中。 				
授業概要					
<p>【歌唱】発声メカニズムを理解し、歌唱に必要な発声技術やビブラートなどの技術を習得します。 また、発声に必要な体幹・基本姿勢・腹式呼吸を身につけるトレーニングを行います。</p> <p>【演奏】基本的な演奏技法をトレーニングによって習得していきます。また、リズムや曲調に対する基礎的な知識もあわせて学習することで、理論に裏打ちされた演奏を身につけていきます。</p>					
到達目標					
<p>【歌唱】チェストヴォイス・ヘッドヴォイス・ミドルヴォイスなど、声色それぞれの発声を技術として身につけることが出来ます。 喚声点のスムーズな移動や母音間での相違点を理解し、ここで培った技術を歌唱の中で活かせるようになります。</p> <p>【演奏】楽曲の構成・アレンジ・リズムなどを分析、それらを意識した演奏ができるようになり、自身の音楽活動へ反映させることが出来ます。 また、コードやスケールについても理解を深めますので、アンサンブル演奏や作曲・アレンジにも非常に役立ちます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【歌唱】ヴォイストレーニング導入/スタビライゼーション(体幹トレーニング)/チェストヴォイスの確立 【演奏】クリックの利用法/メジャースケールとマイナースケール/8分音符のアクセントエクササイズ
【前期】 5～8回目	【歌唱】ファルセットとヘッドヴォイスの相違の理解/チェストヴォイスとヘッドヴォイスでの声区移動 【演奏】楽曲構成のアナライズ/トナーリィ(調と調号)/16分音符のタイミングエクササイズ
【前期】 9～12回目	【歌唱】ヘッドヴォイスの開発/ヴィヴラートの仕組みとトレーニング 【演奏】シンコペーション/音程とトライアド/アクセントの研究と応用
【前期】 13～16回目	【歌唱】ミドルヴォイスの開発/ヴィヴラート練習と各母音の練習 【演奏】3連符・2拍3連符・16分音符/テトラード/パラディドルとその応用
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	【歌唱】ヘッドヴォイス～ミドルヴォイスの復習/ビブラートの復習 【演奏】課題曲①/転回形と分数コード/パラディドルによる「3Camps」
【後期】 24～27回目	【歌唱】喚声点(男性E4/F4、女性B♭4/B4)の克服/広い母音(ア・オ)を中心とした練習 【演奏】課題曲①/ダイアトニックコードとその機能/ロールのエチュード
【後期】 28～31回目	【歌唱】喚声点(男性E4/F4、女性B♭4/B4)の克服～狭い母音(イ・エ・ウ)を中心とした練習 【演奏】課題曲②/ダイアトニックスケール/パラディドルの練習
【後期】 32～35回目	【歌唱】総合的復習及び、課題曲を使用した母音トレーニング 【演奏】課題曲②/ペンタトニック練習/3連音符のタイミングエクササイズ
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	・前後期の実技試験により評価 課題の達成度/課題への取り組み姿勢/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	技術的に上達するには、基本の奏法をきちんと習得する必要があります。 この授業では、「知識・テクニック・曲の理解」など広い範囲を網羅したトレーニングを実践していきます。 そのため、授業内でしかレッスンを行わないような状況だと、技術の習得が難しくなってきますので、 日頃から各自トレーニングを積む習慣を身に付けましょう。
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	演奏/歌唱ベーシックⅠ		授業形態 / 必修	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年 阪神若手音楽祭グランプリ受賞。2010年 河島英五音楽賞にて最優秀賞獲得。 ・2008年 シングル全国発売。ハドソン系着うたサイト インディーズランキング2位獲得。 ・2009年 GOING KOBE 09 出演。2010年 サマーソニック 2010 in東京 出演。 ・2012年 ユニット活動休止後、ソロ活動開始。 				
授業概要					
<p>【歌唱】年間6曲の課題曲に取り組みます。各課題曲の曲調・リズム・音程・フレージングなどを分析し、楽曲への理解を深めながら、表現力とパフォーマンス力の向上に繋げていきます。</p> <p>【演奏】課題曲の演奏を通して、基礎的な技術やアーティキュレーションの体得を目指します。また、エクササイズの反復練習により、音楽を演奏するために必要不可欠なリズム感と音感の向上を目的としています。</p>					
到達目標					
<p>【歌唱】ヴォイストレーニングで習得した発声力でのアプローチにより、表現力の向上につなげることが出来ます。また、課題曲における自身の歌唱を自己分析し、弱点を確認・克服することで歌唱スキルがアップしていきます。</p> <p>【演奏】スケールやリズムへの理解が深まるため、曲調・リズム・音程・フレージングなどの楽曲の構成に対する理解度がアップします。また、アーティキュレーションやアクセントにより、ダイナミクスのある演奏表現が可能になります。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【歌唱】課題曲① 曲調・テンポ・ブレスポイント・メロディの確認/リズム・音程・アーティキュレーションの確認 【演奏】課題曲① アーティキュレーション技術の習得/Chromatic Exercise I /8beatパターン
【前期】 5～8回目	【歌唱】課題曲① 暗譜と表現力の向上/仕上げ 課題曲② 曲調・テンポ・ブレスポイント・メロディの確認 【演奏】課題曲② Major Scale Exercise/Chromatic Exercise II /8beatコーディネーション
【前期】 9～12回目	【歌唱】課題曲② リズム・音程・アーティキュレーションの確認/暗譜と表現力の向上/仕上げ 【演奏】課題曲③ Pentatonic Scale Exercise/Minor Scale Exercise/8beatパターン&コーディネーション
【前期】 13～16回目	【歌唱】課題曲③ 楽曲分析/問題点の克服/暗譜と表現力の向上/仕上げ 【演奏】課題曲④ Natural minor Scale Exercise/Triad Exercise/3連音符系のリズム
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	【歌唱】課題曲④ 曲調・テンポ・ブレスポイント・メロディの確認/リズム・音程・アーティキュレーションの確認 【演奏】課題曲⑤ ファンクロックのリフ/String Crossing Exercise/シンコペーション
【後期】 24～27回目	【歌唱】課題曲④ 暗譜と表現力の向上/仕上げ 課題曲⑤ 曲調・テンポ・ブレスポイント・メロディの確認 【演奏】課題曲⑤ Solo Exercise/Chromatic Exercise III/シャッフルbeat
【後期】 28～31回目	【歌唱】課題曲⑤ リズム・音程・アーティキュレーションの確認/暗譜と表現力の向上/仕上げ 【演奏】課題曲⑥ ミディアムテンポ・ロックのリフ/Diatonic Arpeggio & Scale/3連音符系のアーティキュレーション
【後期】 32～35回目	【歌唱】課題曲⑥ 楽曲分析/問題点の克服/暗譜と表現力の向上/仕上げ 【演奏】課題曲⑥ Solo Exercise/Fretting Hand Exercise/16分音符のシャッフルbeat
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	・前後期の実技試験により評価 課題の達成度/課題への取り組み姿勢/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	演奏に必要な知識・スキル・音感が総合的に身につくため、演奏レベルの向上が約束されます。エクササイズはプロユースの磨きがかかった材料となっているので、基礎的な技術はもとより、楽器をコントロールするための基礎体力と筋力が養われます。みんなでトレーニングして必要な力を養っていきましょう。Let's エクササイズ！
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	演奏/歌唱リズムトレーニング I		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1975年「ボビー・リトル・マギー」でレコード・デビュー。「NASA」「Shogun」「Chicken Shack」などにドラマーとして参加。 ・1998年よりリズム&ドラム・マガジン誌にて「ドラマー立志風雲録」連載開始。 ・「60sドラム定番大百科」など、リットーミュージックより教則本も多数出版。 				
授業概要					
<p>音楽の三大要素である「リズム」を理解するとともに、小節や拍の概念、リズムに関する記号や音符の意味を学んでいきます。</p> <p>【歌唱】リズムを基調とした楽曲を用い、ロック・R&B・シャッフル・3/4拍子など、幅広い様々なビートに対応できる技術を習得します。</p> <p>【演奏】多くのリズムパターンを練習していくことで様々な曲への対応力もつき、音楽のクオリティ向上につながります。</p>					
到達目標					
<p>リズムに対する理解が深まるため、リズムに関する読譜や記譜ができるようになります。</p> <p>【歌唱】バックিংを意識した歌唱法が身に付くため、他パートと合わせたアンサンブルにおいて表現力が格段に向上します。</p> <p>【演奏】多様なリズムのトレーニングを繰り返し行うので、様々なテンポ・リズムの楽曲に対応できる基礎力を養うことが出来ます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【歌唱】8beat ミドルテンポ=BPM90 読譜/シンコペーションやアフタクトなどの理解と表現 【演奏】8beat スロウ～ミドル リズムスタイルの理解/8beat系リズムパターンのエクササイズ
【前期】 5～8回目	【歌唱】8beat アップテンポ=BPM150 読譜/原曲BPMでの歌唱/リズムを意識したフルコーラス歌唱 【演奏】8beat ミドル～アップ シンコペーションや裏拍を含む8beat系リズムパターンのバリエーション
【前期】 9～12回目	【歌唱】16beat=BPM70 読譜/16分音符のシンコペーションやアフタクトなどの理解と表現 【演奏】16beat ベーシックな16beat系リズムパターンのエクササイズ/サブディビジョンの説明
【前期】 13～16回目	【歌唱】16beat=BPM70 読譜/原曲BPMでの歌唱/リズムを意識したフルコーラス歌唱 【演奏】16beat シンコペーションや裏拍を含む16beat系リズムパターンのバリエーション
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	【歌唱】3/4拍子=BPM90 読譜/原曲BPMでの歌唱/リズムを意識したフルコーラス歌唱 【演奏】3連系リズムの基礎知識とリズムパターンのエクササイズ
【後期】 24～27回目	【歌唱】6/8拍子 読譜/原曲BPMでの歌唱/リズムを意識したフルコーラス歌唱 【演奏】6/8拍子のリズムパターンのエクササイズ
【後期】 28～31回目	【歌唱】8beatシャッフル 読譜/原曲BPMでの歌唱/リズムを意識したフルコーラス歌唱 【演奏】12/8拍子のリズムパターンのエクササイズ
【後期】 32～35回目	【歌唱】16beatシャッフル 読譜/原曲BPMでの歌唱/リズムを意識したフルコーラス歌唱 【演奏】12/8拍子楽曲を使ったシンコペーション・3連・裏拍・ハネ等のバリエーション
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期の実技試験により評価 課題の達成度/課題への取り組み姿勢/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	多様なリズムパターンを反復練習で身につけながら、リズムに対する音楽的知識の幅を広げます。このトレーニングを積むことで、自身のスキル向上だけでなく、他の楽器に対する理解も深まるので、アンサンブル時のパフォーマンス向上にも繋がります。
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	音楽理論・イヤートレーニング		授業形態 / 必選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1989年自身のバンド「Terra rosa」でキングレコードよりデビュー。6枚のアルバムを発表。 ・セッションキーボーディストとして、多数のライブやレコーディングに参加。 ・PCゲーム「イース3」「Bloody Chronicle」等のサウンドトラック作曲 				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛えるための「イヤートレーニング」を実践する授業です。 ・正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な譜面の読み書きが出来るようになります。 ・音程やリズムを聞き取るトレーニングを行うため、「耳コピー」が出来るようになります。 ・コードやスケールの知識を得られるため、自身の演奏や作曲に役立てることが出来ます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	譜面の基礎知識 / 音符と休符(Nots&Rests) / リズムの聴き取り
【前期】 5～8回目	音符、休符の練習問題とリズムの練習問題 / 譜面の読み進め方 / 反復記号の練習問題
【前期】 9～12回目	イヤートレーニング 音程 1度・2度・3度・4度・5度の聴き分け
【前期】 13～16回目	イヤートレーニング 音程 6度・7度 / 複音程の聴き分け
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	調・音階・移調のKey説明と長音階 / 全Keyの長音階・短音階(3種)
【後期】 24～27回目	サークル オブ フィフス / ペンタトニックスケール
【後期】 28～31回目	コードとコードの転回形 / 3和音・4和音
【後期】 32～35回目	ダイアトニックコードとその機能 / 主要3和音と代理コード
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期/後期の筆記テスト80% イヤートレーニング聴音テスト20%の配分で評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	<p>音楽において「楽譜」は共通の言語となります。きちんと学んで、最低限の読譜能力を身につけましょう。</p> <p>また、イヤートレーニングは楽曲を耳で聞いてフレーズをトレースする「耳コピー」の能力を格段にアップさせます。</p> <p>最初は難しく感じるかもしれませんが、音楽をやる上でどちらも非常に大切なことですので、しっかりと取り組むようにしましょう。</p>
使用教科書	テキストプリント及び練習問題プリントを配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	演奏/歌唱 分野別基礎実技 I		授業形態 / 必選	実習	選択(必)
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・2003年に「twenty4-7」を結成し、2007年にavexからメジャーデビュー。 ・シングル・アルバム通算15枚をリリース。 ・2012年9年間の活動を経て「twenty4-7」解散後、現在はソロとして活動中。 				
授業概要					
<p>【歌唱】歌唱の基礎からビブラートなどの高度なテクニックまで学びます。また、調号についての理解を深めるため、楽曲のアナライズを行う力を養うことが出来るとともに、作詞作曲では自分の表現をより明確に具現化できるようになります。</p> <p>【演奏】課題となる楽曲選びを通じて、学生自身が自らの音楽性・方向性にあったレッスンを組み立てていきます。楽曲コピーの進め方を身に付けるとともに、楽曲の構造・アレンジなどを理解し、ジャンルに適合した演奏方法を身につけます。</p>					
到達目標					
<p>【歌唱】キー・スケール・コードを理解することで、メロディーの構成要素が明確になり、ピッチが安定した歌唱を実現出来ます。また、高度な技術を駆使して、難易度の高いフレーズを歌うことが可能になります。</p> <p>【演奏】様々な楽曲をトランスクリプト(=耳コピー)することにより、楽曲の構成やアレンジを分析できるようになるので、作曲やバンドアレンジ、アドリブプレイでの音楽性を広げることが出来ます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	【歌唱】key=C① 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】譜面に関する基礎的な知識/スコアリーディング
【前期】 9～16回目	【歌唱】key=C② 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】自由曲① トランスクリプト/楽曲・フレーズのアナライズ/パーツごとのエクササイズ/音源とあわせた演奏の実践
【前期】 17～24回目	【歌唱】key=C③ 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】自由曲② トランスクリプト/楽曲・フレーズのアナライズ/パーツごとのエクササイズ/音源とあわせた演奏の実践
【前期】 25～32回目	【歌唱】key=F① 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】自由曲③ トランスクリプト/楽曲・フレーズのアナライズ/パーツごとのエクササイズ/音源とあわせた演奏の実践
【前期】 33～38回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 39～46回目	【歌唱】key=F② 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】自由曲④ トランスクリプト/楽曲・フレーズのアナライズ/パーツごとのエクササイズ/音源とあわせた演奏の実践
【後期】 47～54回目	【歌唱】key=G 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】自由曲⑤ トランスクリプト/楽曲・フレーズのアナライズ/パーツごとのエクササイズ/音源とあわせた演奏の実践
【後期】 55～62回目	【歌唱】key=D 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】自由曲⑥ トランスクリプト/楽曲・フレーズのアナライズ/パーツごとのエクササイズ/音源とあわせた演奏の実践
【後期】 63～70回目	【歌唱】key=A 調号・スケール・コードの確認/装飾音の確認とエクササイズ/譜面を読み取っての歌唱を実践 【演奏】自由曲⑦ トランスクリプト/楽曲・フレーズのアナライズ/パーツごとのエクササイズ/音源とあわせた演奏の実践
【後期】 71～74回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	・前後期の実技試験により評価 課題の達成度/課題への取り組み姿勢/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	自分で選んだ課題(楽曲)に取り組み、定型カリキュラムではフォローしきれない各個人の音楽性の違いや、各々のプレイスタイルに応えるための授業です。 楽曲コピー(トランスクリプト)の方法や、難しいパートのポイントを聞きわめる方法、解決するための練習の組み立て方なども身に付けていきましょう。
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	演奏/歌唱 分野別応用実技 I		授業形態 / 必選	実習	選択(必)
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・「宝bunebune」のメンバーとしてライブ、ミュージカル、TV、CMなどで活躍。 ・3ピースバンド「フォレストマウス」を率いて、AXIA'03にてグランプリ獲得。 ・サポートギタリストとしても数々のライブやレコーディングに参加。 				
授業概要					
<p>【歌唱】J-R&BやJ-POPの課題曲を使用し、曲を捉える基本的な力や伴奏を聴いて音を正確に捉える力を養います。また、洋楽にも取り組み、言葉のリズム感の違いなどを理解し、総合的なヴォーカル技術の向上を目指します。</p> <p>【演奏】バンドセッションを通じて、楽曲ごとのアンサンブル構造を把握し、考えてプレイするスタイルを身につけていきます。楽曲に応じて、バンド内における各楽器のサウンドメイクも行う実践的な授業となります。</p>					
到達目標					
<p>【歌唱】リズム・メロディ・ハーモニーについて、高いレベルでの技術を習得することが出来ます。また、ステージングやパフォーマンスについても学びますので、ライブなどでの動きや表現力が格段にアップします。</p> <p>【演奏】楽曲のパターンによるリズムへの理解力の向上や、楽曲に応じたサウンドメイキングが出来るようになります。ヴォーカルに対する音量のコントロールやアレンジにもつながり、実際のライブなどで大きな成果を発揮できるようになります。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【歌唱】1曲目「8beat」現状のレベルチェック 譜面と歌詞のリンク/曲の構造、リズムの把握/表現力の向上 【演奏】課題曲① シンプルな8beatを軸にしたUKロックスタイル 各パートのリズム的な噛み合わせの理解
【前期】 5～8回目	【歌唱】2曲目「ハネた16beat」リズムを重視 譜面と歌詞のリンク/曲の構造、リズムの把握/表現力の向上 【演奏】課題曲① シンプルな8beatを軸にしたUKロックスタイル バンド演奏を行うにあたってのサウンドメイク
【前期】 9～12回目	【歌唱】ステージングやパフォーマンス表現/1曲目と2曲目の仕上げ//小テストの実施 【演奏】課題曲② ダイナミックなサウンドが肝のアイランドロック 各パートのリズム的な噛み合わせの理解
【前期】 13～16回目	【歌唱】3曲目「洋楽①」バラード タンギング 譜面と歌詞のリンク/曲の構造、リズムの把握/表現力の向上 【演奏】課題曲② ダイナミックなサウンドが肝のアイランドロック 自分の楽器で出せる、楽曲にフィットしたサウンドメイク
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	【歌唱】4曲目「洋楽②」ミディアムシンコペーション 譜面と歌詞のリンク/曲の構造、リズムの把握/表現力の向上 【演奏】課題曲③世界的スタンダードなアメリカンハードロック 各パートのリズム的な噛み合わせの理解
【後期】 24～27回目	【歌唱】ステージングやパフォーマンス表現/3曲目と4曲目の仕上げ/小テストの実施 【演奏】課題曲③世界的スタンダードなアメリカンハードロック 自分の楽器で出せる、楽曲にフィットしたサウンドメイク
【後期】 28～31回目	【歌唱】5曲目「メロディ重視」ピッチの確立 譜面と歌詞のリンク/曲の構造、リズムの把握/表現力の向上 【演奏】課題曲④ 力強さを感じさせるアメリカンロック 演奏内容によって生じる楽曲の疾走感を理解
【後期】 32～35回目	【歌唱】6曲目「J-R&B アップテンポ」言葉のリズム 譜面と歌詞のリンク/曲の構造、リズムの把握/表現力の向上 【演奏】課題曲④ 力強さを感じさせるアメリカンロック “音価”に対する理解と、演奏内での再現度の向上
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	・前後期の実技試験により評価 課題の達成度/課題への取り組み姿勢/小テスト/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	各課題曲において、具体的な目標を定めて、それを達成するスタイルの授業です。 様々な技術と演奏アプローチを学ぶことで、多様なスタイルに対応する応用力を身につけることが出来ます。
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	アンサンブル I		授業形態 / 必選	実習	選択(必)
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメソング等で活躍する串田アキラ、宮内タカユキのサポートギタリストを務める。 ・「David Lee Roth BAND」の「Toshi Hiketa」氏の教則DVDのレコーディング、ライブシューティングに参加。 ・現在自己のバンド「selfish square」で活動中。 ・楽器メーカーのモニター・デモンストレーター、アーティストサポート、映画音楽、セッション等多面で活躍。 				
授業概要					
<p>バンド形態での授業を通して、人とのコミュニケーション、音楽を作り上げていく過程の全てを学んでいきます。課題曲をライブ演奏に近い状態でアンサンブルするので、技術面のみならず音作りや各パートのバランス調整の実践など、多様な面にアプローチで総合的な音楽力を養います。</p> <p>他パートの学生との共同作業としてすすめるので、音楽仲間との交流・バンドメンバー探しの機会としても活用することができます。</p>					
到達目標					
<p>他の楽器を聴きながら演奏するため、より実践的なパフォーマンス能力を身につけることができます。</p> <p>また、アンサンブル授業での演奏から楽曲の構造・アレンジなどを体感し、今後の自身の音楽制作へ反映することができます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	アンサンブル授業ガイダンス//マイク、ミキサー等、バンドスタジオ内の機材の説明/各パート毎のオリエンテーション 【男子曲①女子曲①】音量バランス/各パートとのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【前期】 5～8回目	【男子曲②女子曲②】音量バランス調整/各パートとのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【前期】 9～12回目	【男子曲③女子曲③】音量バランス調整/各パートとのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【前期】 13～16回目	【男子曲④女子曲④】音量バランス調整/各パートのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	【男子曲⑤女子曲⑤】音量バランス調整/各パートのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【後期】 24～27回目	【男子曲⑥女子曲⑥】音量バランス調整/各パートのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【後期】 28～31回目	【男子曲⑦女子曲⑦】音量バランス調整/各パートのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【後期】 32～35回目	【男子曲⑧女子曲⑧】音量バランス調整/各パートのシンクロ/ダイナミクスのつけ方/ライブ形式発表
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期の実技試験により評価 課題の達成度/課題への取り組み姿勢/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	<p>アンサンブル授業は各コースからなる合同授業です。</p> <p>人とのコミュニケーションが重要になっていくので、人に対しての伝え方、相手が何を思い演奏しているか、プレイヤーとしてのスキルだけではなく、人としてのスキルも高めていきましょう。</p> <p>このアンサンブルを通し、より深い音楽の楽しさを体験し、レベルの高いアーティストを目指しましょう。</p>
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	アンサンブル実技 I		授業形態 / 必選	演習 選択(必)	
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・Bob James、Ken Navarroなど海外アーティストと数多く共演。 ・大西ユカリ、植村花菜、akikoなどのメジャーアーティストのサポートメンバーとしてツアーやレコーディングに参加。 				
授業概要					
<p>「アンサンブル」の授業の課題曲を事前に練習する授業となります。</p> <p>課題曲はヴォーカルに合わせて男子曲と女子曲の2曲あり、楽器演奏のコースは2曲とも演奏できるように練習します。演奏上のポイントや具体的な奏法など技術的な指導をすると共に、楽曲分析により曲の理解を深めます。</p> <p>この授業を通して、楽曲の聴き方や音楽の楽しみ方を学び、人と人が奏でる音楽「アンサンブル」に繋がっていきます。</p>					
到達目標					
<p>楽曲の構造・アレンジなどを理解し、今後の自身の音楽制作に反映させることが出来る。</p> <p>スタジオでのバンド演奏の前に、楽曲を予習しておく重要性を認識し、十分に練習を積んだ上でアンサンブルに臨む姿勢を身につけることが出来ます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【男子曲①女子曲①】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【前期】 5～8回目	【男子曲②女子曲②】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【前期】 9～12回目	【男子曲③女子曲③】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【前期】 13～16回目	【男子曲④女子曲④】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	【男子曲⑤女子曲⑤】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【後期】 24～27回目	【男子曲⑥女子曲⑥】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【後期】 28～31回目	【男子曲⑦女子曲⑦】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【後期】 32～35回目	【男子曲⑧女子曲⑧】曲の仕込み 曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パート練習～フルコーラス練習/暗譜
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期の実技試験により評価 課題の達成度/課題への取り組み姿勢/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	アンサンブルはカラオケと違い、一緒に演奏するメンバー全員で楽曲をつくりあげます。自身のプレイだけでなく、音量バランスや他の人の演奏に意識を向けられるよう、余裕をもった演奏ができるように繰り返し練習しましょう。
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪

授業科目名	オリジナル制作 I		授業形態 / 必選	演習	選択(必)
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートキーボードとして、田原俊彦、郷ひろみ、荻野目洋子、浅香唯等々のツアーに参加。 ・楽曲提供、CF音楽、テレビアニメ、ゲーム等の主題歌、BGM制作。 				
授業概要					
<p>オリジナルの楽曲を制作していく授業です。 知っているコードを繋げて作る感覚的な作曲を脱し、理論に裏づけされた作曲技法を習得していきます。 また、基礎的なアレンジを学び、総合的な楽曲制作の能力を身につけるとともに、オリジナリティの確立を目指します。</p>					
到達目標					
<p>コードの知識を身につけることで、ベーシックな楽曲制作の仕組みが理解できるようになります。 また、それらの知識を自身の楽曲制作に反映させることで、楽曲の質が飛躍的に向上します。 4リズムのアレンジを習得し、楽曲の表現の幅を広げることができます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	楽曲制作ガイダンス/メロディー編① 1拍目スタート・休符スタート・アフタクトの認識 /コード編① トニック・ドミナント・サブドミナントの理解
【前期】 5～8回目	メロディー編② 各セクションでのメロディーの起点/コード編② III7(セカンダリードミナント)の理解 /コード進行からメロディーを作る
【前期】 9～12回目	歌詞にメロディーをつける/メロディーにコードをつける/楽曲構成の考察
【前期】 13～16回目	リズムアレンジ(8beat16beatその他)/コードアレンジ(ダイアトニックコードを理解) /フルコーラスの作成(イントロからエンディングまで)
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	レコーディング実習① レコーディング機材の理解と使用方法について/クリックに合わせた演奏と録音
【後期】 24～27回目	メロディー編③ 音符の長短の配置・音の高低の1コーラスにおけるバランス コード編③ ノンダイアトニックコード(セカンダリー、マイナースケール系、モーダルインターチェンジ等)
【後期】 28～31回目	アレンジ編 リズム/ベースライン/ギター/キーボード 各パートのアレンジを実践
【後期】 32～35回目	調の理解/五度圏のマスター/転調 ワンコーラス内で行われる転調とラストサビで行われる転調の法則と使い方 マスターリズム譜の作成 /4リズム(ドラム・ベース・ギター・キーボード)の譜面の書き方
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期の筆記及び実技試験を70点で評価 提出課題を20点で評価 ・平常点 出席率及び授業の受講態度を10点として評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	<p>この授業により、頭の中にある音楽を形にすることが出来るようになります。 より良い形に仕上げるためには、コードやスケールの知識が必要となる訳ですが、そういった理論もしっかりと学んでいきます。 自身のクリエイティビティを高めて、最良の楽曲が生み出せるように取り組んでいきましょう。</p>
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布